# 健康体の人間が行うマスクの常時着用が子どもに与える悪影響についての懸念

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。また、皆様の日々のご活動並びに乳幼児への保育業務等、誠に感謝いたします。当方といたしましても貴園だからこそ安心して我が子を預けられると確信しております。

　さて、先日、妻に対し「マスク着用の件」で「当保育園に来られる際はマスクの着用をお願いしたい」とのことで言伝をいただきました。ご心配をおかけし、また不安にさせてしまったことについて、お詫び申し上げます。

　貴園は、昨今のいわゆる新型コロナウイルスの感染防止対策として、自治体の指導やマスメディアの報道を根拠としてマスクの着用を促しておられると存じます。

しかし、当方は、健康体の人間がマスクを常時着用することについて、子ども達への発達や発育、衛生上の問題、健康に対する悪影響など重大な懸念があると理解しています。決して、当方の独善的且つ、利己的な理由からマスクの着用をしていないわけではございません。子どもたちの発達を第一に、中長期的な視点に立ち、マスクを着用しないという選択を取らせていただいていることをご理解いただけますと幸いです。

　先月、大阪高槻市の小学校で、今年の2月、マスクを着用して体育の授業に臨み亡くなってしまうという悲しい事故が発生したことが報道されたことは記憶に新しいところだと思いますが、この事故は社会の「**マスクの常時着用の要請**」が生んだ事故である可能性があります。子どもはご存知の通り、現在の生活環境の影響を多大に受けて成長していきますが、周りの大人がマスクを常に着用し、マスクの着用を促していれば子どもにはそれを「**正しいこと**」として条件付けされます。そのような状況で、子どもたちが自らマスクを外すことなどできるのか今一度、ご考慮いただきたく、本レポートを作成いたしました。

当該事故は、直接的には今回のマスク着用の件については関係ないとお思いになるかと存じますが、いずれにせよ大人がマスクを常時着用することによって、子どもたちの発達に一定の影響がある可能性は否定しきれませんし、またこのような事故を繰り返さないためにも、我々大人がマスクの常時着用についての是非を、情報に対して能動的に考察し、より良い社会を子どもたちに引き渡すことを真に望むところでございます。

ご多忙のところ恐れ入りますが、以下のレポートには、先述した「健康体の人間がマスクを常時着用することによる、子ども達への発育への影響、衛生上の問題、健康に対する悪影響の一因となる根拠」を列挙、解説しておりますので、何卒、ご査収のほどよろしくお願い申し上げます。

# 1　健康体の人間がマスクを常時着用することによる、子ども達の発達への影響

この懸念について、京都大学大学院教育学研究科教授の明和政子氏が「新しい生活様式は子どもの脳と心の発達に配慮していない面がある」と指摘し、以下のように解説しています。

引用：https://st.benesse.ne.jp/ikuji/content/?id=95108

「脳の発達には『感受性期』と呼ばれる、環境の影響をとくに大きく受ける特別な時期があります。たとえば、視覚情報をつかさどる視覚野は、生後８カ月ごろから就学前くらいまで環境の影響を受けて変化します。この点において「**他者の動く表情**」を目にする日常経験は、乳児の脳と心の発達にとても重要だと言います。

乳児は、目や口がダイナミックに動く表情を目にしながら、喜びや怒りなど相手の感情を理解する能力を発達させていきます。また、『いい子だね」などと相手が口から発する音声とそれにともなう口の動きの視覚情報を統合しながら、言語を獲得していきます。**相手の表情を理解し、その表情や音声をまねすることで、相手の心を想像する心、共感する心などを発達させていく時期です**」

と、このように指摘しています。現状、どこの保育園でも先生方がマスクをしていないことはあり得ず、常にマスクを着用している状態であることは想像に難くないところかと思います。

次に、しぶいこどもクリニック（東京都大田区）の渋井展子院長で昭和大学医学部小児科客員教授は次のように指摘しています。以下引用：https://dot.asahi.com/aera/2020100100025.html

乳児の発達には「周囲との交流が欠かせない」と解説する。

「新生児の脳は、生命維持に必要な呼吸や心拍、食欲を司る脳幹と不安を察知する扁桃体（へんとうたい）だけが完成された状態で生まれてきます。それ以外の脳の発達は、お世話をする人と環境により作られます。

乳児期の環境が、赤ちゃんの人間性の土台を作る。

「子どもの人格の基礎を形成する重要な時期です。建築に例えれば、やり直しがきかない基礎工事に当たります」

「5歳までに、特定の養育者との間にうまく信頼関係を築けないままだと、『愛着障害』になることがあります。自分の感情の調節が難しくなり、**表情を読み取る能力が低くなって、喜びや恐怖といった感情への反応も薄くなる**。心のよりどころとなる存在がないため、ストレスに耐える力が身につかない可能性があります」

**「赤ちゃんは、大人の目だけ見ても、笑っているのか怒っているのか、わかりません。この状況が数年続けば、表情を見て感情を認知する能力への影響があるかもしれません。また、口の動きを見ながら言葉を覚えていきますが、いまはそれも難しくなっています」**

以上のように指摘されています。

現在の日本社会では、ほぼ100%の人間がマスクを着用していることはご承知の通りです。

このような環境の中、子どもたちは私達大人が幼少期の頃に育てられた環境とは全く違う環境の中で発育、発達していくということになります。果たしてそれが現在の2歳児までの子ども達にどのような影響があるのか未知数であること、また、幼稚園、小学生となったときに、どのような因果関係、相関関係が認められるかは専門家でもわからないところに問題があります。

明和政子教授は、新生活様式は子どもたちの脳と心の発達に配慮していないと指摘しています。仮にそうだとしたら、貴園では入園されている子どもたちの脳と心の発達に配慮しないことに寄与する保育方針である、あるいは、子どもたちの脳と心の発達に配慮しないことに寄与してしまうことと、巷で言われるいわゆる新型コロナウイルスに感染してしまう、感染させてしまうということを比較検討し、その結果マスクの常時着用を保育者に義務付ける選択をしたということになるのでしょうか。

いずれにせよ子どもたち発達に一定の悪影響の懸念が存在することは明白な事実でございますので、一定の検討を試みていただければ幸いでございます。

# 2　マスクの常時着用の健康に対する悪影響と衛生上の問題

この実験動画はSNSで全世界に拡散され、話題を呼びました。ATP検査測定用ルミノメータを使用して使用済のマスクの表側、裏側の清潔度のチェックが行われ、視覚的に数値として認識できます。それによるとマスクの内側は**「8393」**、外側　**「6706」**という結果を計測しました。数値が大きいほど汚く、細菌が多い可能性があります。

https://twitter.com/justin_hart/status/1387277519120867329?s=20

参考

トイレの便座　179

階段の手すり　639

清掃前のオフィスの床 6221

以下、使用された計測器

ATP表面清浄度レベル(RLU)

| Level | SystemSURE Plus & Ultrasnap | |
|---|---|---|
| Ⅰ | 極めて清浄 | 0−10 |
| Ⅱ | とても清浄 | 11−30 |
| Ⅲ | 普通 | 31−80 |
| Ⅳ | やや汚い | 81−200 |
| Ⅴ | 汚い | 201−500 |
| Ⅵ | とても汚い | 501−1000 |
| Ⅶ | 極めて汚い | 1001− |

**ATP検査 参考数値**

- ■トイレの便座 ： **179** RLU（幅44～438RLU）
- ■階段の手すり： **485** RLU（幅48～2050RLU）
- ■エレベーターのボタン ： **123** RLU（幅41～410RLU）
- ■ドアの開閉プレート ： **76** RLU（幅48～173RLU）

※上記は清掃前の汚れを示した数値になります。

※1「ATPふき取り検査」
微生物や食物の細胞に存在するATPを計測する方法。生物由来の汚れを検出できるため、器物の汚染調査、清浄度調査に使用される。（この測定法は、生物由来の汚れの測定は可能であるが、特定の菌の測定はできない）

※2「RLU」
発生した光の量（＝発光量）を示す単位であるRelative Light Unitの略。RLU量が多いほど汚れが多いことを示す

衛生上の問題もさることながら、これから夏が到来することを踏まえると、高気温の環境下でのマスクの常時着用で以下のことが予想されます。

**・保育者の熱中症の危険**

**・高湿度、汗、アクネ菌による保育者のマスク荒れ**

**・免疫力低下による保育者の体調不良**

これだけではなく、他にも「**生理的影響、心理的影響、健康への影響**」が懸念されます。

表1

フェイスマスク装着による生理的・心理的影響とその健康への影響の可能性

| 生理的影響 | 心理的影響 | 健康への影響 |
|---|---|---|
| ●低酸素血症<br>●過剰症<br>●息切れの発生<br>●乳酸濃度の上昇<br>●pHレベルの低下<br>●アシドーシス(酸血症)<br>●毒性<br>●炎症<br>●自己汚染<br>●ストレスホルモン(アドレナリン、ノルアドレナリン、コルチゾール)の増加<br>●筋緊張の増大<br>●免疫抑制 | ●「戦うか逃げるか」反応の活性化<br>●慢性的なストレス状態<br>●恐怖<br>●気分の乱れ<br>●不眠症<br>●疲労感<br>●認知機能の低下 | ●ウイルス性疾患や感染症にかかりやすくなる<br>●頭痛<br>●不安感<br>●うつ病<br>●高血圧症<br>●心血管疾患<br>●癌<br>●糖尿病<br>●アルツハイマー病<br>●既存の症状や疾患の悪化<br>●老化現象の促進<br>●健康状態の悪化<br>●早期死亡率 |

https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7680614/

**※上記論文は米国国立衛生研究所の国立生物工学情報センター（ＮＣＢＩ）によって公表されたスタンフォード大学の客員研究者であるBaruch Vainshelboim博士によって書かれましたが、政治的な圧力により撤回を余儀なくされていますが、次ページの論文で新たにマスク着用の弊害が再確認されています。**

最新の研究では、ドイツの科学者の研究チームは、“**Is a Mask That Covers the Mouth and Nose Free from Undesirable Side Effects in Everyday Use and Free of Potential Hazards?**”と題された論文において、日々のマスクの使用によって及ぼされる甚大な弊害についての研究成果を公表されています。この研究では、178件の文献をレビューすることによりマスク着用による深刻な弊害が確認されています。要約すると以下のようになります。

論文：https://www.mdpi.com/1660-4601/18/8/4344/htm

**「マスク着用に伴う呼吸生理学上の変化により、着用者の血中のガス、多種多様な器官系と代謝プロセスに悪影響を及ぼし、個々の人間に対して身体的、心理的、社会的に有害である」**

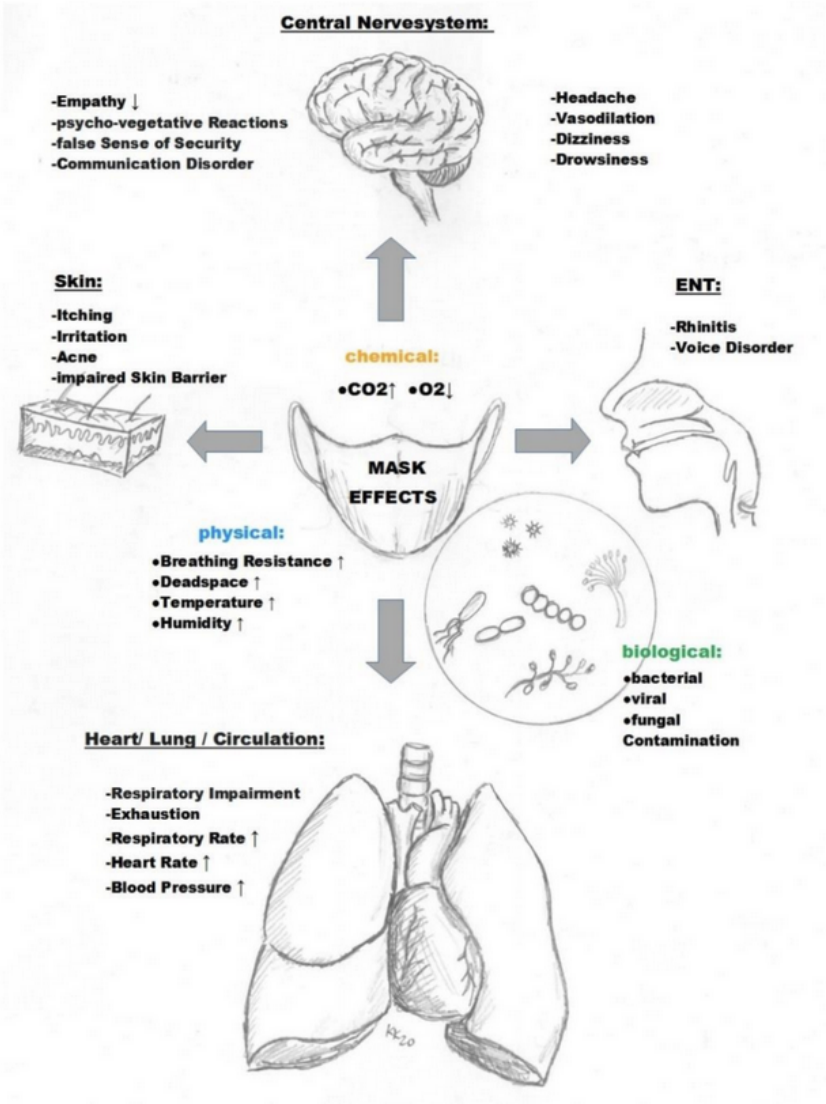
**Figure 5.** Diseases/predispositions with significant risks, according to the literature found, when using masks. Indications for weighing up medical mask exemption certificates.

In addition to protecting the health of their patients, doctors should also base their actions on the guiding principle of the 1948 Geneva Declaration, as revised in 2017. According to this, every doctor vows to put the health and dignity of his patient first and, even under threat, not to use his medical knowledge to violate human rights and civil liberties [9]. Within the framework of these findings, we, therefore, propagate an explicitly medically judicious, legally compliant action in consideration of scientific factual reality [2,4,5,16,130,132,143,175,176,177] against a predominantly assumption-led claim to a general effectiveness of masks, always taking into account possible unwanted individual effects for the patient and mask wearer concerned, entirely in accordance with the principles of evidence-based medicine and the ethical guidelines of a physician.

The results of the present literature review could help to include mask-wearing in the differential diagnostic pathophysiological cause consideration of every physician when corresponding symptoms are present (MIES, **Figure 4**). In this way, the physician can draw on an initial complaints catalogue that may be associated with mask-wearing (**Figure 2**) and also exclude certain diseases from the general mask requirement (**Figure 5**).

For scientists, the prospect of continued mask use in everyday life suggests areas for further research. In our view, further research is particularly desirable in the gynecological (fetal and embryonic) and pediatric fields, as children are a vulnerable group that would face the longest and, thus, most profound consequences of a potentially risky mask use. Basic research at the cellular level regarding mask-induced triggering of the transcription factor HIF with potential promotion of immunosuppression and carcinogenicity also appears to be useful under this circumstance. Our scoping review shows the need for a systematic review.

The described mask-related changes in respiratory physiology can have an adverse effect on the wearer's blood gases sub-clinically and in some cases also clinically manifest and, therefore, have a negative effect on the basis of all aerobic life, external and internal respiration, with an influence on a wide variety of organ systems and metabolic processes with physical, psychological and social consequences for the individual human being.




この論文では、１７８件の文献が精査され、マスク着用に伴う呼吸生理学上の変化により、着用者の血中のガス、多種多様な器官系と代謝プロセスに悪影響を及ぼし、個々の人間に対して身体的、心理的、社会的に有害である旨の結論が得られています。

つまり、先述した政治的な圧力で一方的に撤回させられた論文以上の弊害が存在するという結論が得られたのです。科学論文は客観的な立場で且つ資金背景も透明な科学者によってされるべきでありますから、別の科学者が分析しても同じ結論が得られるのは当然の帰結となります。本論文はマスクに係る様々な弊害をまとめた集大成とも言え、その範囲は非常に広範な領域に渡っています。

**Figure 5.** Diseases/predispositions with significant risks, according to the literature found, when using masks. Indications for weighing up medical mask exemption certificates.

**Increased risk of adverse effects when using masks:**

**Internal diseases**
COPD
Sleep Apnea Syndrome
advanced renal Failure
Obesity
Cardiopulmonary Dysfunction
Asthma

**Psychiatric illness**
Claustrophobia
Panic Disorder
Personality Disorders
Dementia
Schizophrenia
helpless Patients
fixed and sedated Patients

**Neurological Diseases**
Migraines and Headache Sufferers
Patients with intracranial Masses
Epilepsy

**Pediatric Diseases**
Asthma
Respiratory diseases
Cardiopulmonary Diseases
Neuromuscular Diseases
Epilepsy

**ENT Diseases**
Vocal Cord Disorders
Rhinitis and obstructive Diseases

**Dermatological Diseases**
Acne
Atopic

**Occupational Health Restrictions**
moderate / heavy physical Work

**Gynecological restrictions**
Pregnant Women

**COPD**

**睡眠時無呼吸症候群**

**喘息**

**呼吸器系疾患**

**心肺疾患**

**神経筋疾患**

**パニック障害**

**認知症**

**統合失調症**

**声帯障害**

**ニキビ**

**アトピー**

**etc.**

## ３　１，２の事実から導き出される結論

以上の事実及び観点から、健康体の人間がマスクを常時着用を励行するべきではない理由をまとめると以下のようになります。

**・大人のマスクの常時着用による子どもたちの発達への影響の可能性及び懸念**

**・マスク着用における、保育者達の健康リスク**

**・使用済みマスクの衛生上の問題**

**・中長期的な健康リスクの増大の可能性**

保育者の健康状態が子どもたちへの保育活動に影響することはもちろんのこと、マスクの常時着用が現実問題として効果的なのか疑うべき段階にきているのではないでしょうか。

また、1年以上もの期間が経過し、日本社会でほぼ100％の人間がマスクを着用しているにも関わらず、それでも感染者（PCR陽性者）は増加しているということであれば、常識で考えても、マスクの感染予防効果などないということの証明になるのではないでしょうか。

事実としてPCR検査は、インフルエンザA型、インフルエンザB型、アデノウイルス、マイコプラズマ、パパイヤ、マンゴーなどあらゆるものが「陽性」として反応してしまう感染症検査には不適格なものであり、それはノーベル賞受賞者でありPCR検査法発明者である、故キャリー・マリス博士自身が2019年10月以前に生前に発言しており動画サイトで拡散されました。https://twitter.com/Awakend_Citizen/status/1391753271987998725?s=20

さらに付け加えるならば、PCR陽性者は感染者ではにということは厚生労働省が公式に国会の場で発言しています。https://www.youtube.com/watch?v=Kpu2-XUCUPs

いわゆる新型コロナウイルスの感染予防対策として、自治体、政府が方針を定めているとしても、それが事実として正しいという保証はまったくないということはご承知のとおりでございます。

次世代の子どもたちに引き継いでもらうことになる社会のあり方は、民主主義国家である以上、各個人が情報を能動的に取得した上で思考して選択すべきですし、私達大人がより良い社会を責任を持って次世代に引き渡すべきであることは言うまでもありません。

# 反論

本レポートの反論として以下のような主張が考えられます。

**・マスク着用それ自体が感染防止対策として有効であることは間違いない**

**・無症状でも感染するから危険**

**・子どもが新型コロナウイルスに感染した場合、マスク着用をしていなかったということであれば、過失と見なされ、責任を追求されてしまう**

**・社会がマスク着用を要請している以上、従わざるを得ない**

これらについて、ひとつづつ検討を試みます。

## ーマスク着用それ自体が感染防止対策として有効であることは間違いない

　この主張はマスメディアを始め、あらゆる媒体で周知、拡散された経緯があり、それがそのまま、「**マスクの着用、ソーシャルディスタンス、3密の回避**」の社会的要請となりましたが、マスクの着用自体で感染を防げるものではないということは既に実証済みです。

そもそも、当レポートはマスメディアで演出されるマスクの効果についての反論であって、上記の論文から既に反論済みです。

常識で考えても、マスク着用に効果があるなら、他人のマスク着用を気にする必要などないはずです。現実問題、社会でほぼ100％の人間がマスクを着用しているのにも関わらず、また比較データの提示も行わないまま「**感染が広がっている**」とするマスメディアの制限された情報を、手放しで信頼するわけにはいきません。

また、マスメディアが公共の利益に則する機関であるならば、本来、上記に挙げた論文を取り上げ、放送法4条における公平な報道をする必要がありますが、NHK、フジテレビ、TBS、日本テレビ等に問い合わせても取り上げられないとのことでした。

**放送法第四条**

**放送事業者は、国内放送及び内外放送（以下「国内放送等」という。）の放送番組の編集に当たつては、次の各号の定めるところによらなければならない。**

**一　公安及び善良な風俗を害しないこと。**

**二　政治的に公平であること。**

**三　報道は事実をまげないですること。**

**四　意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。**

## 一無症状でも感染するから危険

**「無症状で感染する」「無症状感染者」**という言葉は今回2019年のいわゆる新型コロナウイルス騒動から生まれた言葉です。それまで無症状感染などという言葉はなく、**基本的に無症状は健康体**として扱われてきたことはご承知のとおりです。

この無症状から感染するという言説もマスメディアの報道から社会に浸透していったものです。この説の論拠、根拠、エビデンスとして取り上げられたのが、クリスチャン・ドロステン氏の論文です。

https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMc2001468

しかし、この論文に対して反論がなされ、クリスチャン・ドロステン博士の主張は完全に否定されました。

https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33219229/

当論文によると、約1000万人を検査したうちの300人が無症状で陽性反応がでました。

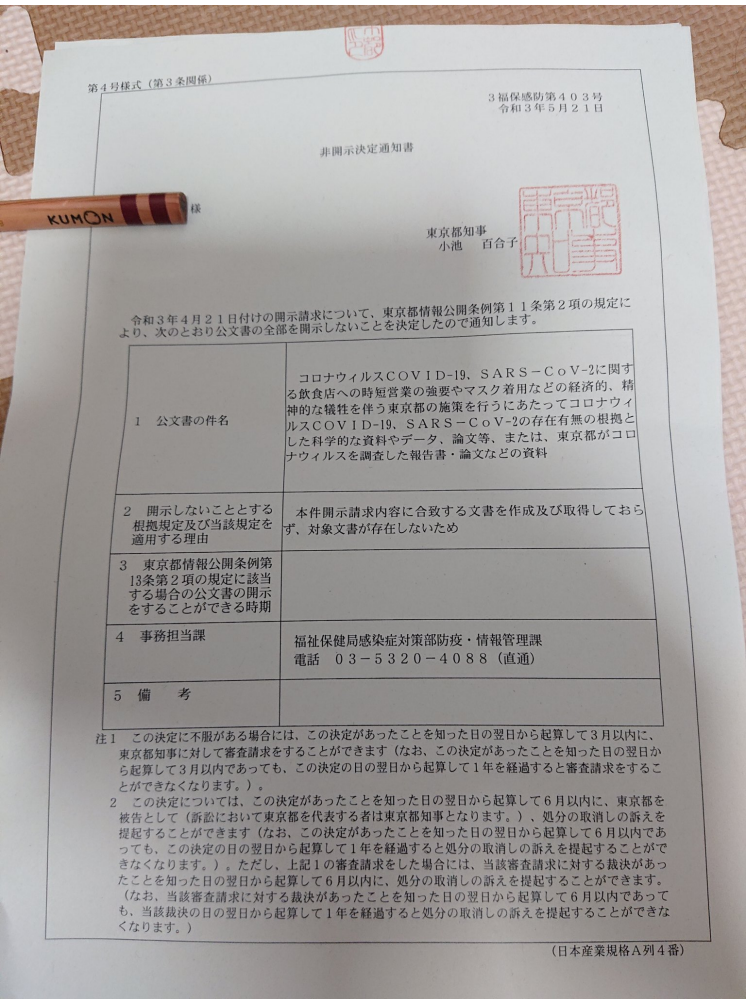
しかし、無症状の300人と接触した1174人の検査も行いましたが、誰一人として陽性にはなりませんでした。この大規模な研究結果はドロステン博士による一件の研究よりはるかにデータ量が多くエビデンスレベルではドロステン博士のそれを圧倒的に超えています。

以上のように常時マスク着用する根拠というものはすべてマスメディアによって流布され、客観的なデータによって既に否定されています。このことから「**飛沫感染**」にしても無症状の人間が他者に感染させるエビデンスも存在しないということも付け加えておきます。

## ー子どもが新型コロナウイルスに感染した場合、マスク着用をしていなかったということであれば、過失と見なされ、責任を追求されてしまう

これについての不安も理解はできます。当レポートの論文を引用し、議論する必要があるかと思います。しかし、誰が誰に感染させたといった立証は不可能ですし、マスクをしてないからといって過失を認定することは法律上も不可能です。しかし、このような事情があるからと言って、子どもたちの発達リスクや保育者の健康リスクに目を瞑るのであれば、責任逃れのために保育者の健康リスクや子どもたちの発達リスクを甘受するという論が成立してしまいます。実際のところ、いわゆる新型コロナウイルスの存在自体もはっきりせず、市民から情報開示請求が行われ、世界最高権威である米国CDCをはじめ、厚生労働省やカナダ保健省、中国CDC、東京都など「**新型コロナウイルスの存在を証明するエビデンスはない**」と事実上認めています。

### 東京都



第４号様式（第３条関係）

３福保感防第４０３号
令和３年５月２１日

非開示決定通知書

様

東京都知事
小池　百合子

令和３年４月２１日付けの開示請求について、東京都情報公開条例第１１条第２項の規定により、次のとおり公文書の全部を開示しないことを決定したので通知します。

| | |
|---|---|
| １　公文書の件名 | コロナウィルスＣＯＶＩＤ-19、ＳＡＲＳ－ＣｏＶ-2に関する飲食店への時短営業の強要やマスク着用などの経済的、精神的な犠牲を伴う東京都の施策を行うにあたってコロナウィルスＣＯＶＩＤ-19、ＳＡＲＳ－ＣｏＶ-2の存在有無の根拠とした科学的な資料やデータ、論文等、または、東京都がコロナウィルスを調査した報告書・論文などの資料 |
| ２　開示しないこととする根拠規定及び当該規定を適用する理由 | 本件開示請求内容に合致する文書を作成及び取得しておらず、対象文書が存在しないため |
| ３　東京都情報公開条例第13条第２項の規定に該当する場合の公文書の開示をすることができる時期 | |
| ４　事務担当課 | 福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課<br>電話　０３－５３２０－４０８８（直通） |
| ５　備　　考 | |

注１　この決定に不服がある場合には、この決定があったことを知った日の翌日から起算して３月以内に、東京都知事に対して審査請求をすることができます（なお、この決定があったことを知った日の翌日から起算して３月以内であっても、この決定の日の翌日から起算して１年を経過すると審査請求をすることができなくなります。）。

２　この決定については、この決定があったことを知った日の翌日から起算して６月以内に、東京都を被告として（訴訟において東京都を代表する者は東京都知事となります。）、処分の取消しの訴えを提起することができます（なお、この決定があったことを知った日の翌日から起算して６月以内であっても、この決定の日の翌日から起算して１年を経過すると処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）。ただし、上記１の審査請求をした場合には、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して６月以内に、処分の取消しの訴えを提起することができます。（なお、当該審査請求に対する裁決があったことを知った日の翌日から起算して６月以内であっても、当該裁決の日の翌日から起算して１年を経過すると処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）

（日本産業規格Ａ列４番）

### 米国CDC

*A further tip-off is the use of the word 'isolates." This means NO ISOLATED VIRUS IS AVAILABLE.*

*Another way to put it:*

*NO ONE HAS AN ISOLATED SPECIMEN OF THE COVID-19 VIRUS.*

*NO ONE HAS ISOLATED THE COVID-19 VIRUS.*

*THEREFORE, NO ONE HAS PROVED THAT IT EXISTS.*

*As if this were not enough of a revelation to shock the world, the CDC goes on to say they are presenting a diagnostic PCR test to detect the virus-that-hasn't-been-isolated...and the test is looking for RNA which is PRESUMED to come from the virus that hasn't been proved to exist.*

※誰もCOVID-19ウイルスの分離された標本を持っていません。誰もCOVID-19ウイルスを分離していません。したがって、それが存在することを誰も証明していません。

https://www.fda.gov/media/134922/download

したがって、いわゆる新型コロナウイルスの存在が官公庁や世界各国の機関で認められていない以上、それに感染したと主張されたところで責任の追求は不可能です。

当たり前ですが、存在しないものに感染することはできません。

**「社会がマスク着用を要請している以上、従わざるを得ない**」という主張にも関連しますが、科学的根拠のない、少なくとも薄い感染対策を要請すること自体が問題であり、それに従わなかったからといって罰則を受けるようなものでもありません。

厚生労働省の保育所に対するガイドライン（「保育所における感染症対策ガイドライン」）を拝見させていただいておりますが、あまりにもストイックに感染対策を講じるようなガイドラインとなっている割には、何一つエビデンスは提示されておりません。

根拠が乏しく、現実的でない感染対策を講じ、本来子どもの手本となるべき私達大人が、「ウイルス」という言葉に翻弄され続け、情報を見誤り、その誤った情報から他者の権利や自由を制限、侵害してしまっていることは、法治国家である我が国のもつ憲法にも抵触しかねない行動だと言え、昨今の感染対策と称する日本社会の全体主義化には警戒すべきです。

連日マスメディアで騒がれているいわゆる新型コロナウイルスの感染者（陽性者）の内、重症者や死亡者の実際の数字は左のグラフのとおりです。

※実効再生産数とは「1人の感染者が平均して何人に感染させるか」を表す指標です。1より大きいと感染が拡大傾向にあり、1より少ないと感染は減少傾向にあることを意味します。

このような事実よりも、マスメディアが発する**「印象、イメージ」**の方が圧倒的に影響力があることがご理解いただけるかと思います。

繰り返しになりますが、PCR陽性＝感染者という誤認識と、無症状感染という誤解が現状の問題の根本的な部分を占めています。

その誤解は、以上の事実から晴れているはずです。

昨年の夏、保育士の先生方が炎天下の中でマスクをしながら保育をしていた光景を当方は見ていました。なんとも痛々しく、苦しい思いで健康を害しながら保育をされる先生方を見て非常に心が痛みました。友人の保育士からは、マスク着用するようになってから子どもたちの笑顔が少なくなったという感想もいただきました。

様々な事情から、マスクを取り外すことは困難だとしても、少なくともこういった情報が存在することを認識していただければ結構でございます。お忙しい中、最後までお読みいただきありがとうございました。

最後に、第二次世界大戦中ナチス・ドイツを率いていたアドルフ・ヒトラーの言葉と、ナチスの宣伝大臣であったヨーゼフ・ゲッベルスの言葉を引用させていただきます。

**「大衆は小さな嘘より、大きな嘘の犠牲になりやすい」**

- 1939年5月1日ベルリンのルストガルテンでのスピーチよりアドルフ・ヒトラー

**「大衆は、最も慣れ親しんでいる情報を”真実”と呼ぶのである」**

-ナチス宣伝大臣ヨーゼフ・ゲッベルス

# 参考文献、資料等


https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33219229/

https://www.thesmileproject.global/post/un-masking-children-part-1-of-4-the-role-of-children-in-covid-19-transmission-in-schools

https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMc2001468

https://www.mdpi.com/1660-4601/18/8/4344/htm

https://www.researchsquare.com/article/rs-124394/v1

https://greatgameindia.com/broken-vaccines-mutate-blood-clots/

https://www.aier.org/article/medical-journal-warns-about-maskss-potentially-devastating-consequences/

https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7680614/

https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/?term=Vainshelboim%20B%5BAuthor%5D&cauthor=true&cauthor_uid=33303303

https://diamond.jp/articles/-/243242

https://loudminority.medium.com/%E6%96%B0%E5%9E%8B%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A-%E7%9A%86%E3%81%8C%E3%81%97%E3%81%A6%E3%82%8B%E3%81%8B%E3%82%89-%E7%9D%80%E3%81%91%E3%81%A6%E3%82%8B%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%81%AE%E6%82%AA%E5%BD%B1%E9%9F%BF-70772659b126

https://twitter.com/You3_JP/status/1387450363213533188?s=20

https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000201596.pdf

https://note.com/you3_jp/n/n4f9f10266171

https://www.aier.org/article/medical-journal-warns-about-maskss-potentially-devastating-consequences/

https://note.com/you3_jp/n/n405525563aa3

https://note.com/you3_jp/n/n220b082f3fc7

https://st.benesse.ne.jp/ikuji/content/?id=95108

https://dot.asahi.com/aera/2020100100025.html?page=2

https://ameblo.jp/ohanakeiko/entry-12650113417.html

https://odysee.com/@JapaneseTruth3:5/PPEexpertChrisSchaeferspeaks:0